

各 位

会 社 名 東日本ハウス株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 成田和幸  
 (JASDAQ・コード 1873)  
 問 合 せ 先 取締役総務財務担当 青苺雅肥  
 T E L (03) 5215-9907

平成19年10月期 業績予想(連結・単独)の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成18年12月28日の決算発表時に公表いたしました「平成19年10月期(平成18年11月1日～平成19年10月31日)の業績予想」を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 平成19年10月期連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成18年11月1日～平成19年4月30日)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	24,700	△2,900	△3,100
今 回 予 想 ( B )	25,260	△1,802	△3,022
増 減 額 ( B - A )	560	1,098	78
増 減 率	2.3%	—	—
[ご参考] 前期(平成18年10月期中間)実績	25,113	△2,429	△4,791

(2) 通期(平成18年11月1日～平成19年10月31日)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	77,600	3,300	1,180
今 回 予 想 ( B )	70,300	3,100	1,200
増 減 額 ( B - A )	△7,300	△200	20
増 減 率	△9.4%	△6.1%	1.7%
[ご参考] 前期(平成18年10月期)実績	69,314	2,898	△6,279

2. 平成19年10月期単独業績予想の修正等

(1) 中間期(平成18年11月1日～平成19年4月30日)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	20,600	△2,870	△2,970
今 回 予 想 ( B )	21,521	△1,992	△2,966
増 減 額 ( B - A )	921	878	4
増 減 率	4.5%	—	—
[ご参考] 前期(平成18年10月期中間)実績	20,604	△2,487	△4,811

(2) 通期（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 （ A ）	67,900	2,810	920
今 回 予 想 （ B ）	61,200	2,400	1,000
増 減 額 （ B - A ）	△6,700	△410	80
増 減 率	△9.9%	△14.6%	8.7%
〔ご参考〕前期（平成 18 年 10 月期）実績	60,897	2,530	△7,149

3. 修正理由

(1) 連結

①中間期

売上高については、単独の売上高増に伴い、前回予想を上回る見込みです。  
経常利益については、単独の経常利益改善により、前回予想を上回る見込みです。  
中間純利益については、単独の要因により、前回予想を上回る見込みです。

②通期

売上高については、単独の売上高減に伴い、前回予想を下回る見込みです。  
経常利益については、原価低減及び販売管理費等の経費削減が見込まれるものの、売上高の減少により売上総利益が減少することから、前回予想を下回る見込みです。  
当期純利益については、貸倒引当金繰入額の改善などにより、前回予想を上回る見込みです。

(2) 単独

①中間期

売上高については、完成工事高及び販売用土地の売上高が増加することにより、前回予想を上回る見込みです。  
経常利益については、売上高増及び原価低減により 467 百万円の売上総利益が改善したことと販売管理費等の経費削減 453 百万円などの要因により、前回予想を上回る見込みです。  
中間純利益については、経常利益は前回予想を上回ったものの、下期に見込んでおりました貸倒引当金繰入額を当中間期において処理いたします結果、前回予想を若干上回る見込みです。

②通期

売上高は、当中間期の受注状況から完成工事高 6,000 百万円の減少が見込まれるため、前回予想を下回り、61,200 百万円となる見込みです。  
経常利益は、原価低減及び販売管理費等の経費削減が見込まれるものの、売上高の減少により、前回予想を下回る見込みです。  
当期純利益については、経常利益が前回予想を下回るものの、貸倒引当金繰入額の改善などにより、前回予想を上回る見込みです。

4. 特別損失の計上について

貸倒引当金繰入額

連結子会社である東日本ハウスサービス株式会社の営業貸付金債権の貸倒引当金繰入額を 886 百万円計上したことにより、当中間期の純損失が 658 百万円となりました。

当社はその中間純損失に対して、貸倒引当金繰入額 658 百万円を計上することとしました。銀河高原ビール株式会社は、現在、特別清算手続中でございますが、当中間期における事業整理損失に対して貸倒引当金繰入額 192 百万円を計上することとしました。

なお、通期においては、特別損失を見込んであり業績に影響はございません。

5. 業績への影響

業績への影響につきましては、平成 19 年 10 月期業績予想(連結・単独)の修正のとおりであります。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上